

指定管理者評価表(外部評価シート)

1. 基本事項

		評価対象期間	平成30年4月1日 ~ 令和2年3月31日		
施設の概要			指定管理の状況		
名称	可児市文化創造センター・アーラ		指定管理者名称	公益財団法人可児市文化芸術振興財団	
所在地	可児市下恵土3433番地139		指定管理者所在地	可児市下恵土3433番地139	
設置目的	心豊かな地域文化の創造と振興を図り、文化芸術を通して全ての市民が地域社会で生き生きと暮らすことのできるまちづくりに寄与するため。		指定管理期間	平成28年4月1日 ~ 平成33年(令和3年)3月31日 (3期目)	
			選定種別	公募・ 非公募 利用料金制 採用 (一部・完全)・不採用	
供用開始年月	平成14年7月		業務内容	1. 文化芸術事業の企画及び実施に関する業務 2. 市民の文化芸術活動の支援に関する業務 3. センターの施設(敷地及び敷地内の付属施設を含む。以下同じ。)及び備品の貸出し(使用の許可を含む。)に関する業務 4. センターの施設及び備品の維持管理に関する業務 5. その他センターの設置の目的を達成するために必要な業務のうち、市長の権限に属するものを除く業務	
施設所管部署	文化スポーツ部 文化スポーツ課				

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項目	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)	令和元年度(4年目)
開館日数	306 日	306 日	306 日	293 日
施設利用者数	314,506 人	316,056 人	344,639 人	332,962 人
施設稼働率	82.0 %	77.9 %	76.7 %	76.3 %

② 自主事業実施状況

項目	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)	令和元年度(4年目)
開催回数	58 回	61 回	64 回	65 回
参加人数	26,841 人	32,486 人	27,704 人	27,528 人

③ 主な自主事業の内容

実施年度	事業の名称等	参加人数
平成30年度	新日本フィルハーモニー交響楽団サマー・コンサート2018	771 人
平成30年度	ala Collection シリーズ Vol.11「移動」可児公演	1,274 人
平成30年度	大型市民参加事業第11弾 オーケストラで踊ろう!	833 人
平成30年度	シリーズ恋文 Vol.9	394 人
令和元年度	日英共同制作公演「野兎たち」(可児公演)	1,058 人
令和元年度	シリーズ恋文 Vol.10	355 人
令和元年度	文学座公演「ガラスの動物園」	486 人
令和元年度	新日本フィルハーモニー交響楽団オープン・シアター・コンサート	622 人

3. 収支状況

① 収入

単位:円

項目	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)	令和元年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
入場料収入	47,152,950	39,805,450	40,336,618	42,102,000	37,568,700
利用料金収入	31,935,106	31,206,554	31,931,720	31,206,000	32,800,319
公演事業収入	17,256,110	23,720,321	15,242,795	9,982,000	9,977,798
指定管理料	450,000,000	450,000,000	450,000,000	436,000,000	436,000,000
その他	81,275,927	70,753,718	74,803,552	124,030,000	103,393,672
収入計 A	627,620,093	615,486,043	612,314,685	643,320,000	619,740,489

② 支出

単位:円

項目	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)	令和元年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
人件費	185,349,699	188,539,121	193,738,748	194,010,000	193,336,981
光熱水費	46,164,740	50,376,585	55,910,697	52,450,000	54,767,300
委託費	284,919,519	270,260,335	275,125,771	294,545,000	281,587,771
租税公課	14,797,700	17,457,800	18,835,600	18,155,000	14,315,700
その他	84,717,224	82,665,903	89,144,458	117,160,000	99,245,729
支出計 B	615,948,882	609,299,744	632,755,274	676,320,000	643,253,481
収支 A-B	11,671,211	6,186,299	-20,440,589	-33,000,000	-23,512,992

4. 評価結果

区分	評価項目	評価内容	一次評価(施設所管課)		二次評価(選定評価委員会)	
			評価理由等	評価	評価理由等	評価
業務の履行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	年度当初の事業計画どおり確実に実施している。特に、文化芸術を通じて人々の絆や生きる活力を創り出す「まち元気プロジェクト」は、内容も実施回数もますます充実してきている。	A	指定管理者として、業務をしっかりとして遂行している。また、舞台技術の専門職員を配置するなど組織体制がしっかりしており、専門性の高い業務が適正に履行されており、努力がうかがえる。事業の細部については適宜検討をして適切な対応をしていただくと共に、文書作成や管理における体制をより確実なものとしていただきたい。	A
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	業務体制が明確に示されており、各事業の担当等も細かく決められている。また、貸館事業においては、舞台技術や制作の専門知識を持った職員の配置により、きめ細かいサポートが可能となっている。	A		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	適正に整備・保管されている。	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	適正に点検・保守が実施されている。	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていますか	対処マニュアルや緊急連絡網は、防災センターに整備・保管されており、事後対応や事故の記録も適正に実施されている。また、年に2回防災訓練を実施し、緊急時に備えている。	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	利用者数は令和元年度は平成30年度に比べると減少しているが、大規模改修工事に伴う開館日数の減少やコロナウイルスが要因である。様々な分野にわたり、広く市民が参加できる事業が企画されているほか、事業数の増加など、事業を充実させる努力も見られる。	A		
サービスの水準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	地域に根差した劇場として運営が行われているとともに、近年、劇場に期待されている社会包摂機能を大いに意識した取組が実施されている。	A	非常に工夫を凝らした様々なサービスを提供しており、市民のための多様で質の高いサービスが市民目線で提供されている。また、文化発信についての評価は高いものである。引き続き、「まち元気プロジェクト」などの各事業がもっと市民に浸透するようPRをすること、次の世代につながる事業を進めていただきたい。	A
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	利用の際に提出するチェック表に記入されているご意見、ご感想には感謝のコメントが多く、満足度は高い。	B		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	パンフレットやホームページ、広報誌ala TIMESにおいて計画的に行われているほか、館長自らブログやSNSにより、国内外へ積極的な情報発信を行っており、その認知度も非常に高くなっている。	A		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	苦情を含むご意見、ご感想に関する記録簿を作成しており、その内容について情報共有が図られ、適切に対応されている。	B		
収支状況	指定管理経費の経理事務の状況	指定管理費に関する経理事務は適正に行われているか	指定管理に関する経理事務は、会計事務所による確認や指導等を定期的に受けることで適正に行われている。	B	2年連続の赤字について、要因は把握されており、財政基盤をゆるがすものではない。来館者の増加につながる事業を考えることなどにより収支を安定させるよう努力していただきたい。	B
	指定管理者施設の財務状況	指定管理者施設の財務状況は適正か	平成30年度及び令和元年度の収支は各2,000万円を超える赤字であるが、その要因は具体的に把握されており、財務諸表に異常と思われる数値も見られないことから、大きな問題はなかったと考える。	B		
総合評価			主な指定管理業務である文化芸術事業の企画及び実施や活動支援、施設管理を適正に実施している。また、社会包摂機能を大いに意識した運営が行われている。これらの活動は、文化庁の「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」において、全国で7つの拠点の内の1つに採択され5年間の継続支援を受けており、全国からも注目される運営が行われている。	A	「所見」欄に記載	A

所見 事業内容や施設運営については、社会包摂という考え方のもと、多様で質の高いサービスが市民目線で提供されている。この文化芸術を活用した社会包摂活動に力を入れた劇場経営は、豊かな地域づくりに大いに貢献している。また、これらの活動が、文化庁の「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」において全国で7つの拠点の内の1つに採択されているなど、全国から注目される運営が行われていることは非常に高く評価できる。収支状況については、2年連続赤字であることが財政基盤を揺るがすものではないが、最小の費用で最大の効果を求めることや安定した経営に注力していただきたい。また、新型コロナウイルス感染症への対応や、社会状況の変化を踏まえ、事業内容を検証していくことが必要である。
以上のことを踏まえ、全国からも注目される財団の運営は高く評価できるものであり、今後も適切に事業運営を継続していただき、その活動がもっと市民に浸透することを期待する。

5. 参考(評価基準)

① 区別評価基準

◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されていないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

② 総合評価基準(評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する)

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項がある
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である